



凡例

- 避難所 ①
- 一時避難所 ②
- 水が早めに ③
- 浸かりやすい場所 ④
- 水が流れ込む方向 ⑤
- マンホール ⑥
- フタの開いた側溝 ⑦
- 道路下の排水路 ⑧
- 避難路 ⑨
- 標高(メートル) 8.5
- その他危険箇所 ⑩

今後の課題

【私たちの課題・心構え】

- ・自宅の2階に一時的に避難するような状況になった場合、近所の平屋建ての家にも積極的に声をかけて、逃げ遅れを防ぐようにする。
- ・垣根やブロックなどが道路にはみ出さないようにするなど、避難の障害となるものを減らす心がけをする。
- ・道路が冠水してからの車での避難は、周囲に波を引き起こして別の危険を招く恐れがあるため、控えるようにする。

【行政との話し合い必要】

- ・団地内の集会所に電話をひくなど、一時避難場所として使えるように整備する。
- ・師勝東小学校のグラウンドを開放したり高台を作るなど、車の避難場所を作る必要がある。
- ・団地北側の道路沿いの排水路のフェンスを、より高く頑丈なものに換えてほしい。
- ・中江川を氾濫しにくくするため、川底の清掃や浚渫をしてほしい。
- ・中江川排水機場のライブカメラを増強し、下流側だけでなく上流側の映像も見られるようにしてほしい。
- ・川の水位や排水機場稼働状況などを、携帯電話からでも簡単に見られるようにしてほしい。



注意点

- ◎ ネオポリス団地から避難所である師勝東小学校に通じる道には側溝にふたのない箇所が多い。浸水中に避難する際は要注意。
- ◎ 団地の西側と南側の道路の下には中江川排水機場に繋がる暗渠が通っている。増水時には暗渠から水が逆流する恐れがある。
- ◎ 合瀬川左岸の堤防道路は浸水の恐れが小さいので避難路として使うこともできる。ただし、川が増水し氾濫の恐れがある場合はかえって危険となる可能性がある。
- ◎ 当地区の東海豪雨時の浸水深は、道路上で約150cm、床上約70cm。

